



# るらてる



2016年  
**10**月  
No.826

■発行所 ■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>  
■E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人 ■ 安井宣生 koho006@jelc.or.jp  
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社  
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)  
■振替口座 ■ 00190-7-1734



## 説教 「それでも赦しを語る」

日本福音ルーテルみのり教会 牧師 三浦知夫

ぶどう園の主人は言った。「どうしようか。わたしの愛する息子を  
送ってみよう。この子ならたぶん敬つてくれるだろう。」

(ルカによる福音書20章13節)



ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して旅に出ました。収穫の時期になり、主人は収穫を受け取るために僕を送りますが、僕は袋だたきにされ、追い返されてしまいます。二人目の僕も、三人目の僕も同じでした。それで主人は愛する息子を送るのですが、農夫たちはぶどう園を自分たちのものにしてよ

うと考え、跡取りである主人の息子を殺してしまつたというのです。

最初の僕が袋だたきにされた時点で主人は、農夫たちが信用できる相手ではないと分かつたはずで、それなのになぜ主人は農夫たちにぶどう園を預けたままにし、彼らを信じて僕を送り続けたのでしょうか。私たちは、信用でき

ない人、それ  
も既に裏切られたというよ  
うな人に再び  
何かを頼もう  
とはしないで  
しよう。  
主人に人を  
見る目がな  
かつたという  
ことではあり  
ません。この  
主人は、信用  
できない者で  
あつても信じ  
続ける、裏切  
られても相手  
を信じて待ち  
続ける人だつ  
たのです。

神様と神の民の関係を表  
しています。ぶどう園の主  
人は神様、農夫たちは民の  
指導者たちであり、また神  
の民のことです。人々は神  
様から任されたこの世界  
で自分勝手に罪を犯して  
暮らしていたので、神様は  
人々が悔い改めるように  
何人もの預言者を遣わし  
たのですが、人々は預言者  
を退け続けたのです。

それで神様は「わたしの  
愛する息子を送つてみよ  
う。この子ならたぶん敬つ  
てくれるだろう」と独り子  
であるイエスをこの世界  
に送られたのです。人々が  
信用に足る者たちではな  
いとよく分かつていても、  
それでも神様は人々を信じ  
続けてくださったという  
ことです。  
たとえば、主人が「戻つ  
て来て、この農夫たちを殺  
し、ぶどう園をほかの人た  
ちに与えるにちがいない」  
となつていきます。それでは  
実際のその続きはどうだつ  
たのでしょうか。聖書は、イ  
エスを殺してしまつた者  
たちも、すべての罪に生き  
る者が、神様の許に立ち返

す。  
赦しの言葉を語り続け  
るところに留まるのではな  
く、赦された者が成長する  
ための言葉に、語る言葉の  
重心を移していくべきだと  
いう考えもあるでしょう。  
赦された者として成長し  
ていくことは、もちろん大  
切なことです。しかし、信  
仰者としての成長の妨げ  
になるから赦しを語ること  
はもう卒業しようとは考  
えないのがルーテル教会だ  
と思つたのです。  
赦しを語り続けること  
によつて、私たちの中に甘  
えが生じてしまふ危険が  
あることも事実です。その  
ことは素直に認め、そう  
ならないように気をつけて  
いかなければなりません。け  
れども、だから赦しを語る  
ことは少し控しようとはな  
らないのです。それでも「あ  
なたは赦される」と繰り返  
して語り続けるのがルーテ  
ル教会です。十字架の赦し  
を語り続けることが何よ  
りも大切だからです。ただ  
神様の恵みにより、十字架  
をとおして私たちの罪は  
赦されるのです。私たちは  
赦しの言葉に「はい」とう  
なずくだけでよいのです。  
何度でも赦しに立ち返  
り、感謝と喜びに満たされ  
赦しの言葉を携えて神様  
から遣わされていきたいと  
思います。

宗教改革500年記念  
**教会手帳 2017**

発売中

定価 1,100円

お求めは  
北海道キリスト教書店 (TEL:011-737-1721/FAX:011-747-5979)  
キリスト教書店/ハンナ (TEL:03-3269-4490/FAX:03-3269-4491)  
静岡聖文会 (TEL:054-260-6644 FAX:054-260-5612)  
名古屋聖文会 (TEL:052-741-2416/FAX:052-733-2648)  
広島聖文会 (TEL:082-208-0022 FAX:082-208-0177)  
キリスト教書店/レルヤ (TEL:096-372-3503/FAX 共用)  
日本福音ルーテル教会事務局 (TEL: 03-3260-8631/FAX:03-3260-8641)

「東京2020大会協賛くじ」なるものが発売されていたのですが、そのキヤッチコピーをご存じでしょうか。それは、「私たちも、ニッポンのお役に立ちたい。」というものです。この宝くじは、2020年に東京で開催する五輪を応援する目的で販売されたものです。ですので、「東京オリンピックを応援しよう」みたいなものであれば、「トホホ」と笑つて販売の前を通り過ぎることができたでしょう。けれども、「私たちがニッポンのお役に立ちたい」というキヤッチコピーを前にして、なんともいえない嫌な気持ちになりました。それは、このキヤッチコピーが、東京五輪を応援することと日本という社会の役に立つことを

連載コラム  
**en chu**

⑦【Society】

同義に考えているからです。そしてここには、ニッポンの五輪を応援しない者はニッポンの役に立たない者という排除の考えが含まれています。たぶん企画者はそこまで考えてはいないのだと思いますが…。  
しかし、昨今の社会には、人間の価値を、「社会(ニッポン)のために役立つかどうか」で評価するという空気が充満してきているのではないのでしょうか。  
主イエスは、安息日に麦の穂を摘む弟子たちが批判されたとき、食べ物がなく空腹のダビデと共に者たちが、祭司のほかは誰も食べてはならない供えのパンを食べたことを話した後、後に言われました。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」(マルコ2:27)と。  
私たちは、ここに住む一人ひとりが、生きていくために「結びつき」「分かち合う」ために社会ができたことを、肝に銘じたいのです。  
岩切雄太  
(門司教会 八幡教会 佐賀教会 牧師)





議長室から  
宗教改革500年まであと1年となりました。これからは、全国総会や常議員会を経て決めた記念事業を実行するのみです。各目がそれぞれのやり方で、500年に一度の記念事業に積極的に参加いただければ幸いです。

この問いを耳にしてすぐに思い起こしたのが、ある日本の社会学者のこの社会現象の分析でした。それは、ルター自身が貧者の救済に尽力したこともさることながら、誰もが貧者になり得るし、失業する可能性があることをルター派は肯定する性格がある、これが主因だと言っています。だから、誰にも一様に適応できるような社会制度、つまり福祉社会へとつな

### 「ルターの正と負の遺産」

総会議長 立山忠浩

体研修会にて其講演をしてくださった阿部志郎先生(神奈川県立保健福祉大学名誉学長)は、北欧を中心に社会福祉政策が充実している国々はいずれもルター教会を基盤としているのだが、何か関連があるのだろうか?と問われま

なかつたという解釈です。さらに重要なことは、このルター派的な性格がキリスト教の本来の条件だと述べていることでした。キリスト者ではない社会学者がルター派の性格を評価するのです。ならば、ルター派の教会こそが

農民戦争の際のルターの言動が、多くの農民を殺戮することにつながったことを指摘し、驚くべきことに、日本のあるカルト集団の指導者と似ているとさえ書いているのです。



### ⑥ レイトウルギア (礼拝する民) その2

宮本 新

(田園調布教会会牧師、日本ルーテル神学校講師)

で営まれているのは public worship (公の礼拝)だからです。その公(public)は「官」や「お上」ではなく、ここでは人々と「共(common)」に「を標榜する」というユニークな公私の組み合わせが見られます。

も、むしろ馬小屋に生まれ、市井の人々と共に歩んだイエスを黙想する機会が多くなることでしょうか。私たちは天の高みに昇るのではなく、地の低みに降りてこられる神の愛と憐れみに触れて讚美の声を挙げます。人々の暮らしの中に「教会」は信じる群れとなつて「生まれる」。あのパンと葡萄酒にキリストが現臨されるのを信じて集うように、「今、ここで」み言葉を求めます。

### ルーテルこども キャンプ報告

キャンプ長 甲斐友朗

8月8日〜10日、第18回ルーテルこどもキャンプが広島教会を会場に行われました。今年は、小学5、6年生のキャンパー32名、スタッフ28名、総勢60名がキャンプに参加し、恵み深い3日間となりました。

今年、広島では大きな出来事がありました。オバマ大統領の来訪です。そのため、原爆資料館や平和公園内には大勢の海

外の方の姿が見受けられました。子どもたちも、原爆資料館や原爆の子の像、原爆ドームなどをめぐりながら、原爆の被害や平和について思いをめぐらせました。そして、教会に帰ってからは、「平和なこと」と「平和でないこと」を、それぞれ紙に書いて模造紙に張る作業をしました。予想以上に様々な意見が出て、子どもたちの考えの深さに驚かされました。

も学びました。チャプレンの伊藤節彦牧師からは、聖書が語る平和(キリストの平和)は、ジャイアンのように、人を威圧し、支配することによつてもたらされたものではない、平和は、顔をあげるアンパンマンのように、自ら弱くなることによつてもたらされたものだということをお聞きしました。



頭で考え、自分の言葉で意見を言おうとしていました。きつと、この3日間の経験は、子どもたちにとってかけがえのない財産になったことでしょう。

最後に、子どもたちを送り出してくださいました各教会、教区の皆様、場所を提供し、献身的にご奉仕してくださいました広島教会の皆様、やる気と賜物に満ちたスタッフの皆様、このキャンプを覚えてお祈りくださいました全国の皆様、心より感謝申し上げます。







# 宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える (53)

ルター研究所長 鈴木 浩

どこの大学でも、すべの授業がラテン語で行われていた。だから、外国で学ぶことも特別なことではなかった。例えば、ウィッテンベルク大学の学長になるシヨイルは、法学研究が進んでいたイタリアのボローニヤ大学で学び、そこで法学博士の学位を得ていた。大学生は誰でも、ラテン語で話し、読み、書いた。ルターもそうであった。中国文化圏のもとにあったどの国でも、かつては、知識人は漢文を読み、書くことができたのと同じである。ただ、漢文では話すことができなかったのとは違って、ラテン語では会話も可能だった。

ラテン語はときどき奇妙な表現をする。例えば、大学を首席で卒業すると「ソムマ・クム・ラウデ」(最大の称賛をもって)と呼ばれた(アメリカでは今でもそうである)。しかし、語順を単純に英語に置き換える「the highest with

praise」となる。同様に「この箇所では「ホック・イン・ロ」(this in place)となる。前置詞がどういつわけか「前に置かれず、「中に置かれるのだ。ルターには、数は多くないが、同じ本文をラテン語でもドイツ語でも書いたものがある(例えば「キリスト者の自由」)。比べて読むと、ラテン語本文は

かにもラテン語風の響きがあり、ドイツ語本文はいかにドイツ語の特徴が出ている。メランヒトンが書いた『アウグスブルク信仰告白』もその点では同じだ。ルターもメランヒトンも完璧にラテン語をものにしていて証拠である。当時の大学生は、みんなそうであった。だから、ルターのおかげでウィッテンベルク大学が「一躍「有名校」になると、外国からも大勢の入学者が出て来るようになった。そのせいでどうするか、ルターの給料は突出していたようである。それでも生活は大変であった。



## ⑫ 慰めと励ましの歌

力なる神は  
わが強きやぐら  
(教団讃美歌450番)

どの教会でも宗教改革主日や記念日の礼拝では必ずこの讃美歌を、それも力強く歌うだろう。ほとんどの人がこの讃美歌はルターによるものだと知っているだろうが、その背景や歴史を考えてみたことはあまりあるまい。これは元々このような勇ましい歌ではなかった。反対者に囲まれ、改革は停滞し、いわば四面楚歌の中で自らはうつ傾向に

陥っていたルターが自らを慰め、励ますために詩編46編の始めを歌詞とし、さらに敵に囲まれなす術がなくとも、自分に代わってキリストが戦ってくたさるから、最後の勝利は神のみ手にあると歌ったものだった。従って原曲はテナーのソロ曲、もつとゆつくり慰めと励ましを入れて歌うものだった。似てはいるが元気のよい、宗教改革行進曲のような現在のメロディーになったのはルターから100年か150年経つてのことだったろう。ドイツ北部から北歐にかけてルーテル教会が揺るぐことのない位置を占めるように

なった頃である。バッハもその勇ましいメロディーを使って、カンタータ80番を作曲した。死後その息子の一人が演奏したときにはさらにトランペットまで加えて勝利の歌の響きを強めたという。原詩をできれば直訳でもよいから静かに読んでみると、作詞当時のルターの姿をいささかなりと心に浮かべることができるとか。これを原曲で静かに歌って信仰の励ましとするとということもまた、ルターに即して意味深いことだろう。教会讃美歌改訂版にはこの原曲をぜひ並べて載せて

Der 107. Psalm / Deus noster refugium et virtus / etc. Martinus Luther.

30. 49

Ich feind / mit crust ers ist mein / gros (macht vnd viel list / sein grausam rüftung ist / auff erd ist nicht sein gleichem. / Zie wjer macht ist nicht gethan / wir sind gar bald verloren / Es streit te man / den Gott hat sich

Ein feste burg ist unser Gott / Ein gar Erhilff vns frey ans aller not / die vns te wehr vnd waffen / Ist hat be troffen / Der alt böß Ich feind

欲しい。罪ゆえに無力のわがために、キリストが一人で戦って勝ちを収めてくださると歌う意味を噛み締めた(教団讃美歌が

の箇所では「われと共に」と歌うのは誤訳も誤訳神学的にも誤りである。心してルターのこの信仰歌を心に刻みつつ歌いたい。



## 敬愛する兄弟姉妹へ、 退任にあたり

ボーマン・ナタン



私の日本との関わりは

その誕生以前からものでした。父ジョン・ボーマン牧師は、当初は進駐軍として終戦直後に日本に着任し、軍警察として日本人を米兵から守る役割

に就きました。また母の弟はその前に沖縄戦で戦死しています。仙台のある教会の教会学校の子ども達が父に、「日本に戻って、子ども達にイエス様のお話をしてください」と呼びかけたことが、その後の父の人生を大きく変えることになりました。そしてそれはまだ生まれていなかった私の人生を方向づけることになりました。

東京で生まれ、湯河原大垣、東京で過ごし、その後29年にわたり神水教会、松橋教会、熊本教会の国際礼拝、慈愛園など様々な宣教の場に関わる

恵みが与えられました。熊本地震により、宣教師館が耐震性に乏しく、安心して生活が続けることができないことが分かりました。最初は野宿し、雨が降り出すと車に、暑くなると別棟の倉庫に宿りました。こんな時には宣教地を離れるものではないと確信しました。関わりのある3つの教会はひどい被害を受けており、施設も学校も同様でした。地震の度にグラウンドに集まり、一緒に避難する生活が続きまし

た。同時に教会や施設を通して、周りの方々を守る大切な絆作りの時ともなりました。コミュニティは被災の副作用である「人震災害」を止める大事な予防線です。コミュニティを失えば、希望も残らず、人としての基盤が揺れることを「人震災害」と名付けました。災害時に人々の心が繋がらなければ、人はその災害に負ける。このことは阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地方大震災などから学びました。被災者に対するゴールデンルールは、被災者の選択権を先ず認め、応援することです。そのような中、私は重

野師、角本師という素晴らしい先生方と共にイエス・キリストの愛を証し、福音宣教に生きる歩みが許されたことを光榮に思っています。この度皆様が熊本の教会、施設、学校のためにささげてくださいました祈りと励ましと支援にも感謝します。自分よりも神様を愛する者、人に仕える者、そして、神様の憐れみに生かされた者として歩んでください。皆様に聖霊が豊かに注がれますように。愛する日本の国が癒され、神の愛に導かれますように祈っています。



